

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

連合「第2次・被災地支援ボランティア」報告

「がんばらない」難しさ

第1次に引き続き4月8日（金）出発予定の第2次は、7日夜に発生した大きな余震の影響で2日遅れの10日の朝、連合本部を出発しました。めざすは、岩手県東和町のベースキャンプ（BC）の花巻市立土沢小学校。今年の3月末で廃校となりましたが、創立130年をこえる小学校は、きれいで小さな鉄筋2階建。今回、1階の1年生クラスは自治労、2年生クラスは日教組、2階の3・4年生クラスを基幹労連、1階の2部屋を女性部屋と事務局と部屋割りされていました（このパターンは継続するそうです）。また、1階の食堂は、朝・夕の食事処であり班長会議の打ち合わせ、懇談の場とフル稼働。今後参加されるみなさん、きれいな状況で引き継いでください。

活動場所の岩手県大槌町は、陸前高田市につぐ大きな被害が出た海岸に面した町で、テレビや新聞などの報道で想像はしていたものの、それ以上の惨状でした。4月11日は、大震災から1月目の節目でした。河川敷や道路わき、空き地に山と詰まれた瓦礫は徐々に重機により片付けられているものの際限はありません。また、手付かずの民家や施設は多く取り残されていました。地元ボランティアセンターに指定された民家や施設で、家人にとっては思い出の多く詰まった家財や品々を、次から次に撤去する作業は大変しのびないものでした。1ヶ月という時間の経過は、汚泥の異臭を増加させ、水に浸かった家財などは水を含み膨張し、ずしりと重いものでした。中でも手付かずの冷蔵庫、海水満タン状態のプラスチック製ロッカーなどは、かなり手ごわい存在でした。そんな時、ヘルメット、ゴーグル、防塵マスク、カッパやゴム長靴には、ずいぶんと助けられました（道具はかわいがってください）。

限られた時間で、できる作業に限界があることはわかっていましたが、一緒に参加したみんなも「ひとつでも多く」「できるだけ」などの思いから、つついがんばってしまいます。与えられた1軒全てを完了できないこともあり、もどかしく心残りでもありました。自分たちがやり残した仕事は、次のボランティアがやり遂げてくれます。「つなぐ」しかありません。



短い期間の作業でしたが、共に汗をかき、仲間との絆を深めることができました。今回のボランティアに参加できたのは、送り出してくれた組織（組合）や職場があったからだ感謝しています。日教組は、「やる時にはやる」頼もしい存在だと再確認させてくれました。まだまだ長い活動です。これから参加する仲間たちが、けがなく奮闘されることを願っています。